

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

令和6年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

令和6年度 事業報告

令和6年度におきましても補助金等を活用し、文化庁の文化芸術振興費補助金を得て、「明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌」30誌の貴重な資料の保存・公開のためのデジタル化事業、子どもゆめ基金の助成を受けて、読書活動支援ソフト「本の海大冒険」のリニューアル、および日本学術振興会科学研究費助成事業として6件の研究等に取り組みました。

「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」に専門員が配置されていない運営については、当財団として懸念を抱くところではありますが、「国際児童文学館」が所期の目的であります、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できますよう、従前どおり大阪府および中央図書館と連携・協力を図るとともに、受託しております寄贈資料の受入れ業務に務めたところであります。

令和6年度決算につきましては、収入では、多言語リーフレット作成の外部団体委託金の減と、前年度にあった子どもゆめ基金助成金（教材開発）の減などにより約639万円の減となりました。支出につきましては、教材開発の純減や国際グリム賞が選考年であったことなどにより前年度比約670万円の減となっております。寄付金収入につきましては、令和2年の移転10周年記念寄付以降も、毎年度500万円の目標額を設定し、広くお願いをしているところですが、前年度よりさらに減少し約66万円の減となりました。正味財産期末残高は昨年度とほぼ同額の447万円の減少となっております。通年ベースとしては、依然厳しい収支状況であり、安定的な運営ができるよう引き続き努力をしてまいります。

「公益目的支出計画」につきましては、令和5年度、当初の計画を4年延長し、令和9年度末に変更する旨、大阪府の認可を受けました。公益目的収支差額では、計画の約882万円に対し、決算額は約685万円となり、達成率は78%になっています。

個々の事業については、令和6年度事業報告3頁以降の[公益事業の部]、[収益事業の部]にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	6.5.10	(1) 評議員の選任について
第2回	6.6.19	(1) 令和5年度収支決算について (2) 令和5年度事業報告について (報告) (3) 令和6年度補正予算について (報告)
第3回	7.3.26	(1) 令和7年度事業計画について (報告) (2) 令和7年度収支予算について (報告) (3) 令和6年度事業の執行状況について (報告)

2. 理事会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	6.4.30	(1) 評議員会の招集について
第2回	6.6.19	(1) 令和5年度事業報告について (2) 令和5年度収支決算について (3) 令和6年度補正予算について
第3回	7.3.26	(1) 令和7年度事業計画について (2) 令和7年度収支予算について (3) 令和6年度事業の執行状況について

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通した子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

①子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：21回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：文庫・読書活動ボランティアグループ、司書、学校司書、教員、その他

②「2023年に出版された子どもの本」

- ・配信日：令和6年8月10日（土）～12月16日（月）
- ・場所：オンライン
- ・内容：「2023年に出版された子どもの本」
- ・講師：土居安子（当財団）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体等
- ・参加者：102人

③「気になる本を読む会」

「学校司書研究会」とともに、大阪府域の学校司書と毎月テーマを決めて読書会等を行う研究会を実施した。（11回）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①講演と対談「幼年文学のはじまりと現在」の実施

- ・開催日：令和6年12月8日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講師：石井睦美（児童文学作家）、宮川健郎（当財団理事長）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：43人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*子どもゆめ基金助成活動

②講演会「絵本と鳥の巣のふしぎ 鳥の巣が教えてくれること」の実施

- ・開催日：令和6年9月8日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講師：鈴木まもる（絵本作家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体等
- ・参加者：64人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団、気になる本を読む会

*協力：大阪府立中央図書館

*子どもゆめ基金助成活動

③国際講演会「アメリカの絵本作家 ウォルター・ウィック自作を語る」の実施

- ・開催日：令和6年11月2日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講師：ウォルター・ウィック（アメリカ合衆国の絵本作家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：42人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

- *協 力：大阪府立中央図書館、小学館
- *子どもゆめ基金助成活動
- *賛助企業：サントリーホールディングス株式会社
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

④講演会

「第41回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式

特別講演「物語を書くコツ」の実施

- ・開催日：令和7年3月8日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 ライティホール
- ・配信日：令和7年4月2日（水）～
- ・内 容：童話・絵本の創作やグランプリ応募にあたっての具体的な助言
- ・講 師：吉橋通夫（児童文学作家）
- *主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*協 賛：日産自動車株式会社

⑤フォーラム

「第40回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式

「40周年記念フォーラム：童話を語る・絵本を描く－童話・絵本の作り手を目指すみなさんへ」の配信

- ・開催日：令和6年3月9日（土）
- ・配信日：令和6年5月17日（金）～令和7年4月1日（火）
- ・内 容：童話・絵本の創作やグランプリ応募にあたっての具体的な助言
- ・講 師：黒井健（絵本画家）、高島純（絵本作家）、富安陽子（童話作家）、吉橋通夫（児童文学作家）
- ・進 行：宮川健郎（当財団理事長）
- ・視聴回数：1,271回

*主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*協 賛：日産自動車株式会社

⑥日本児童文学学会関西例会（第156回、157回）

・開催日：令和6年5月18日（土）、令和7年3月23日（日）

・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室

・内 容：

第156回：講演「マンガ研究誌『ピランジ』創刊の頃－1980～90年代のマンガ批評」
講師：竹内オサム（同志社大学名誉教授）＋研究発表

第157回：ラウンドテーブル「15年戦争期東アジア児童文学の諸相－香港、広東・台湾、沖縄の事例から」

齋木喜美子（関西学院大学）、成實朋子（大阪教育大学）、浅野法子（大阪成蹊短期大学）＋研究発表

・対 象：児童文学研究者、教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等

・参加者：20人（156回）、19人（157回）

*主 催：日本児童文学学会関西例会

*共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*協 力：大阪府立中央図書館

⑦英語圏児童文学会 西日本支部 夏の講演会

・開催日：令和6年6月29日（土）

・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室

・内 容：「イギリスで始まった絵本の仕事」

・講 師：きたむらさとし（絵本作家）

・対 象：児童文学研究者、教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等

- ・参加者：75人（うち会場参加は20人）
- *主 催：英語圏児童文学会西日本支部
- *共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 力：大阪府立中央図書館

(3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。 30回

子どもの本を楽しむ会 11回

保護者・一般向き児童文学・絵本講座、絵本作家との対談 10回

参考：「講演と新刊紹介 2023年に出版された子どもの本」（大阪府立中央図書館主催）の参加者：会場120人+オンライン809人（無料）

審査員：9件

第20回大阪こども「本の帯創作コンクール」

令和6年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第43回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

2. 本と子どもを結ぶ活動

(1) 小学校や美術館等で美術と絵本を楽しむイベント等を計8件実施した。

小学校（2回）、ちっちゃなこどもびじゅつあー（国立国際美術館）（3回）

日中韓子ども童話交流2024（日本）、おはなし作り（同志社国際学院初等部）、

本の紹介を書こう（平安女学院中学校高等学校）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会（6回）と人形劇（3回）を開催し、絵本も寄贈した。

*一般財団法人 高津成和会助成事業

(3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会を実施した。（6回）

②大阪府立中央図書館こども資料室主催の人形劇を実施した。（1回）

③吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）

出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルばれっと

(4) 作家とのワークショップの開催

①ワークショップ「鏡をつかってチャレンジミッケ！ウォルター・ウィックさんの絵本の世界を楽しもう」の実施

・開催日：令和6年11月2日（土）

・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室

・講 師：ウォルター・ウィック（アメリカ合衆国の絵本作家）

・参加者：小学生 27人

*賛助企業：サントリーホールディングス株式会社
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

②ワークショップ「オランダの絵本作家 ハリエット・ヴァン・レークさんとミニ絵本をつくろう！」の実施

・開催日：令和6年7月7日（日）

・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室

・講 師：ハリエット・ヴァン・レーク（オランダの絵本作家）

・対 象：小学高学年以上～大人 30人

(5) 図書館等での街頭紙芝居の実施

街頭紙芝居の実演を行った。

・事業名：むかしの紙芝居を楽しもう

・開催日：令和6年11月9日（土）

- ・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
- ・参加者：32人
- *主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

(6)「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「パネルシアター」を楽しむ子ども向けイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・開催日：令和6年9月21日（土）
- ・定 員：240人（申込者：390人 約1.6倍）
- *協 賛：大阪モノレール、阪急阪神不動産株式会社、
株式会社ベネッセコーポレーション
- *協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
- *子どもゆめ基金助成事業

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3回（自主研修）
- ・対 象：令和6年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの選び方・覚え方・語り方、絵本の選び方

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配布等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：17名
- ・活動回数：15回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、大阪府立中央図書館（6回）、
吹田市立山田駅前図書館（2回）、児童養護施設（6回）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：4名
- ・活動回数：2回（おはなしモノレール、大阪府立中央図書館）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第41回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 1,493点（前年1,490点） 絵本 321点（前年277点）
計 1,814点（前年1,777点）
- ・童話予備審査：令和6年11月8日（木）～11日（月）
- ・絵本予備審査：令和6年11月13日（水）
- ・童話 本審査：令和6年12月5日（木）
- ・絵本 本審査：令和6年12月6日（金）
- ・表彰式：令和7年3月8日（土）
- ・入賞作品展示：令和7年1月8日（水）～3月28日（金）

大阪府立中央図書館

- *協 賛：日産自動車株式会社

Ⅲ 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「本の海大冒険」の開発・更新・普及

ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本を探すことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」を YouTube 版「本の海大冒険」と連携させ、図書データの追加更新と普及に努めた。

*協 力：株式会社ジャスティス

*子どもゆめ基金助成活動

2. 「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の普及

子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさや広がり、検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトの普及を図った。

3. 「ほんナビきっず」の更新・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによりお気に入りの本に出会うシステムを富士通 J a p a n 株式会社とともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。

新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1,885 冊

4. 「ドキドキ絵本づくり for Kids 」の更新・普及

絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができる「ドキドキ絵本づくり for Kids 」について、ちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行った。

Ⅳ 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会の開催、海外への日本の児童文学の情報提供や子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行った。

1. 国際講演会とワークショップ（再掲）

①講演会「アメリカの絵本作家 ウォルター・ウィック自作を語る」の実施（再掲）

・開催日：令和6年11月2日（土）

・講 師：ウォルター・ウィック（アメリカ合衆国の絵本作家）

・対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等

②ワークショップ「鏡をつかってチャレンジミッケ！ウォルター・ウィックさんの絵本の世界を楽しもう」の実施（再掲）

・開催日：令和6年11月2日（土）

・講 師：ウォルター・ウィック（アメリカ合衆国の絵本作家）

③ワークショップ「オランダの絵本作家 ハリエット・ヴァン・レークさんとミニ絵本をつくろう！」の実施（再掲）

・開催日：令和6年7月7日（日）

・講 師：ハリエット・ヴァン・レーク（オランダの絵本作家）

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームペー

ジで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ①フィンランド児童文学研究所
- ②ミュンヘン国際児童図書館（ドイツ）
- ③スウェーデン児童文学研究所
- ④スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑤Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑥浙江師範大学 国際児童文学館（中国） 等

V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。令和6年度は、第20回受賞者の選考を行い、受賞者が選ばれた。

- ・アンケート発送 令和6年9月1日（日）
- 締め切り 令和6年11月30日（土）
- ・選考 第1次選考会議 令和6年12月26日（木）
- 第2次選考会議 令和7年3月22日（土）

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
一般財団法人 金蘭会
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図った。

(1)「明治以降の絵葉書に見る児童文学・児童文化の研究―巖谷小波旧蔵資料の分析―」の調査研究を外部研究者とともに行った。

- ・研究会（4回 ①令和6年5月14日、②令和6年6月30日、③令和6年9月16日、④令和7年3月15日）
- ・『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第38号（2本）

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究代表者：土居安子、令和6～8年度）

(2)「古田足日と子どもの文化をめぐる総合的考察―蔵書・資料のデータベース化、調査を基に」

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究分担者：宮川健郎、令和2～6年度）

(3)「冷戦期東ユーラシア文化外交と英米文学のジオポリティックス」

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（A）
（研究分担者：鷺谷花、令和6～9年度）

(4)「日本における女性映画パイオニア：フェミニスト映画史の国際的研究基盤形成」

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)
(研究分担者: 鷺谷花、令和2~6年度)

(5)「国語科教育における「近代童話／童謡」の再評価と新教材の発掘をめぐる調査研究」
(研究分担者: 宮川健郎、土居安子、令和4~7年度)

*独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

(6)「中華世界の児童文学に関する基礎的研究」
(研究分担者: 土居安子、令和6~9年度)

*独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

2. 出版企画・展示企画

(1)「第40回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『今日にかぎって』(樺島ざくろ/作 奥野哉子/絵)
- ・絵本大賞受賞作品『さんになだけのないしょのはなし』(スーヅィ/作)
BL出版(株)と提携 令和6年12月刊行

(2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・タイトル「幼年文学のはじまりと現在」
- ・会 期: 令和6年11月15日(金)~12月28日(土)
- ・場 所: 大阪府立中央図書館 展示コーナー
- ・内 容: 幼年文学の歴史の展示
- ・対 象: 大人と子ども

*主 催: 大阪府立中央図書館 国際児童文学館

*協 力: 一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第38号の発行

公募論文 3本
共同研究メンバーによる論文など 4本 計7本掲載

4. 報告集の発行

- ・『2023 年度フォーラム報告集「児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる」(講師: 多田昌美、藤井佳子、松下宏子)
- ・『2023 年度国際交流事業報告集 国際講演会「イタリアの絵本作家 フランチェスカ・サンナ自作を語る」子ども向けワークショップ「イタリアの絵本作家 フランチェスカ・サンナさんと絵本をつくろう!」』

5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は9名。上記1の共同研究等への協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざま

まな事業に取り組んだ。

1. 雑誌『少女画報』、『子供パック』、『漫画愛国幼年』等のデジタル化

大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌の保存のためのデジタル化を行った（12誌+遡及分18誌 330点）。また、その内容細目のデータ化を行い、データをメディア芸術データベースへ提供した（16,271件）。

*文化庁文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

2. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

①当財団の事業、研究成果などの紹介

②「ほんナビきつず」の管理・運営

③「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本100選」

「ドキドキ絵本づくり for Kids」「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の管理・運営

④国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月1回（20日頃）発行。

登録会員数：4,381人（令和7年3月21日現在）

(3) YouTubeでの情報発信

子ども向け新刊紹介である「YouTube 版の海大冒険」（週1回）と大人向け「新刊子どもの本ここがオススメ！」（月1回）を発信した。

チャンネル登録者数：2,298人（令和7年5月31日現在）

(4) SNSでの発信

財団業務日に毎日1回以上発信。

X（旧ツイッター）フォロワー数：1,273人、Instagram フォロワー数：87人（令和7年5月31日現在）

3. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) レポートの発行

財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No.14」を発行した。 年1回

4. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。特に、厳しい財政状況を改善するため、寄付を募り、キャラクターグッズのプレゼントを行った。

令和6年度実績 309件 2,819,693円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

○出版企画等

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委託元：株式会社 博文館新社

(2) 出版社等による図書出版にかかる企画協力

・「コープのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委託元：大阪いずみ市民生活協同組合

(3) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託 計 1 件

・「進研ゼミ電子図書館 まなびライブラリー」掲載図書の選定等を行った。

委託元：株式会社 ベネッセコーポレーション

(4) 出版社等による企画協力業務の受託 計 2 件

・「子ども文庫助成事業」の助成団体の選定を行った。

委託元：公益財団法人 伊藤忠記念財団

・「産経児童出版文化賞」の選考委員として審査を行った。

委託元：株式会社 産業経済新聞社

・「講談社絵本賞」の選考委員として審査を行った。

委託元：株式会社 講談社

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

講演会等報告集 169冊

研究紀要 67冊

2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 3,320 冊 雑誌 2,716 冊 その他資料 1,025 点 計 7,061 点

○

令和 6 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 3 4 条第 3 項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

令和 7 年 6 月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団